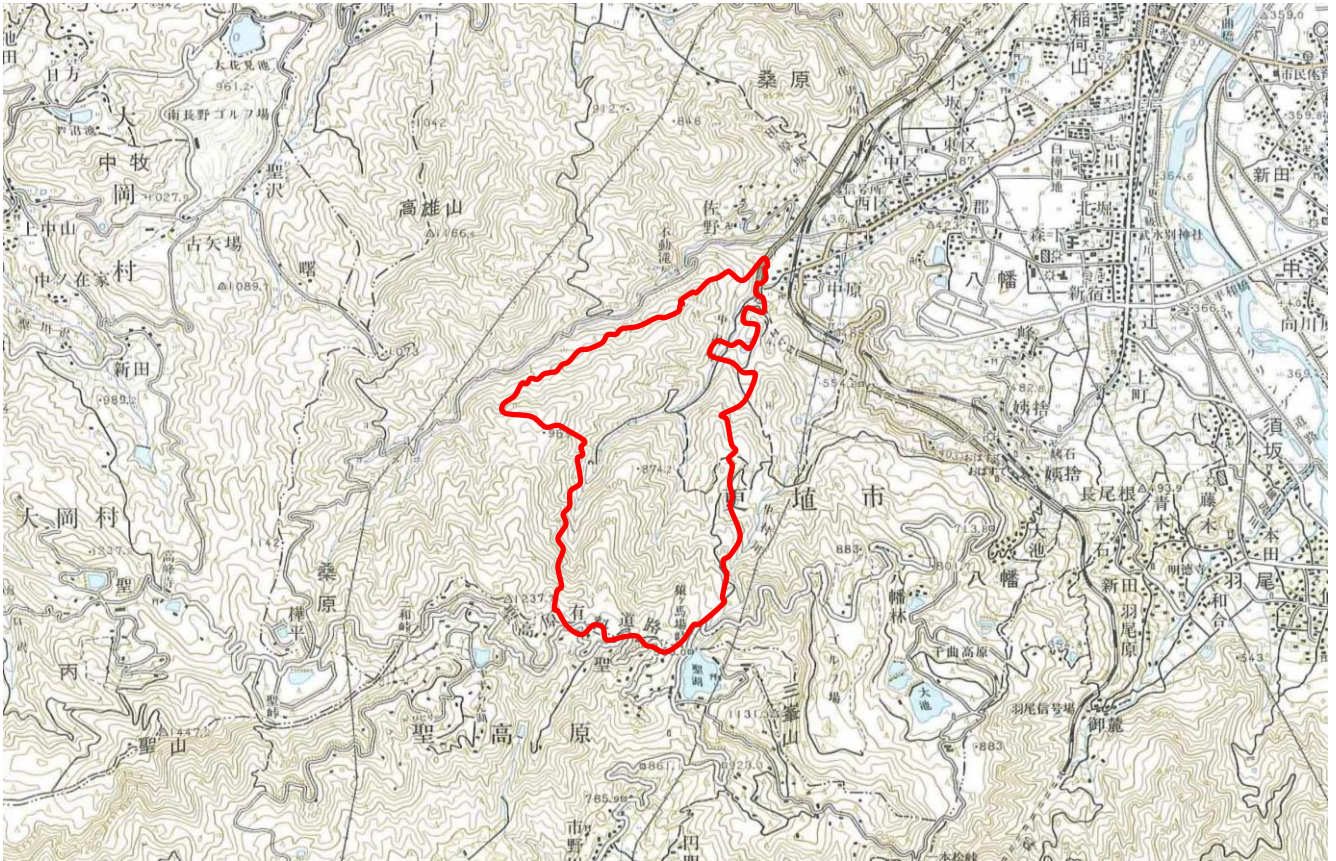


八幡桑原県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(長野、坂城)を使用したものである。

<沿革>

八幡桑原県有林は千曲市の南西、千曲高原の標高590mから1,240mに位置しています。明治39年11月5日に国有林を購入して創設されました。

<現況・特色>

当県有林が属する千曲高原は大池付近を中心に表日本と裏日本の植物分布上の境となっており、植物の宝庫として知られています。

林道不動滝線で樺平を経て大岡県有林に通じています。

樹種別ではスギ、アカマツ、カラマツ、広葉樹などが分布し、中心を流れる中沢川は、地域の水道水源地となっています。

また、木曾義仲が平家追討のために進軍したと伝わる古道が県有林内を縦断しており、地元では「義仲・巴出世街道」と呼んで親しまれています。



樹齢200年を超えるクリ林

＜森林整備の方向＞

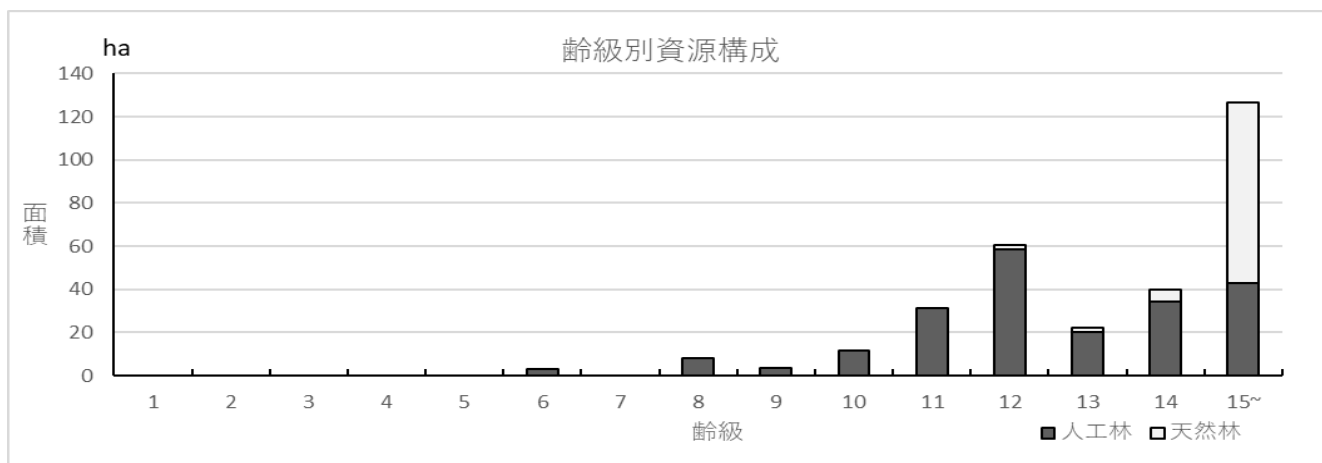
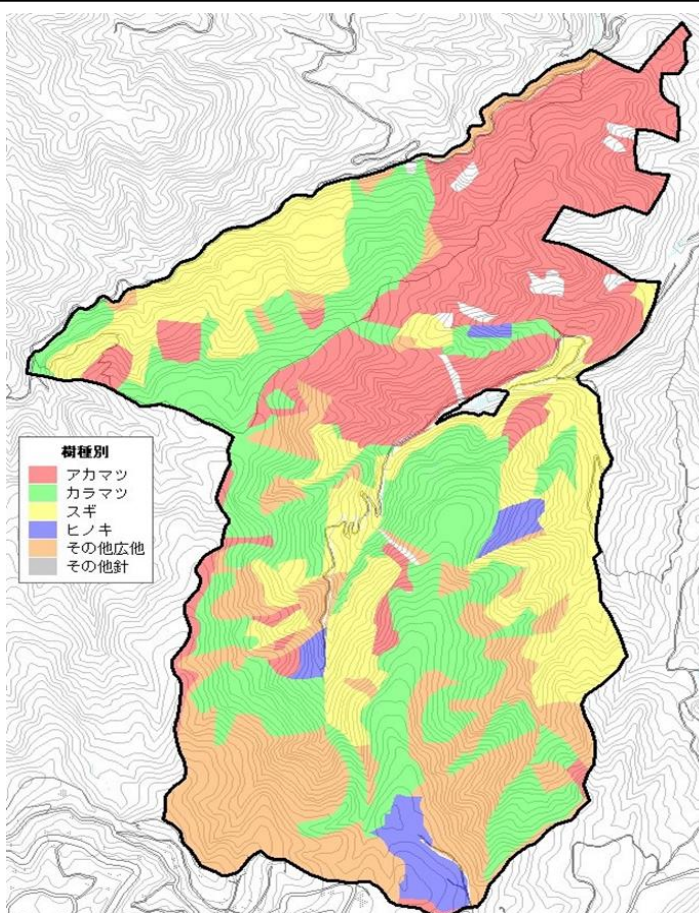
砂防指定地を抱え、地形が傾斜が急峻であり、地位はⅢ以下となっているため、路網から離れていて搬出が困難な林分は、奥地林施業として上層木を適宜抜き伐り、天然更新を促進します。

路網が整備され、傾斜が比較的緩やかな林分については、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を行います。アカマツ林は、松くい虫被害が確認されているため、樹種転換を行います。路網沿線で傾斜が急な林分では、帯状伐採により主伐を行い、針広混交林化を図ります。

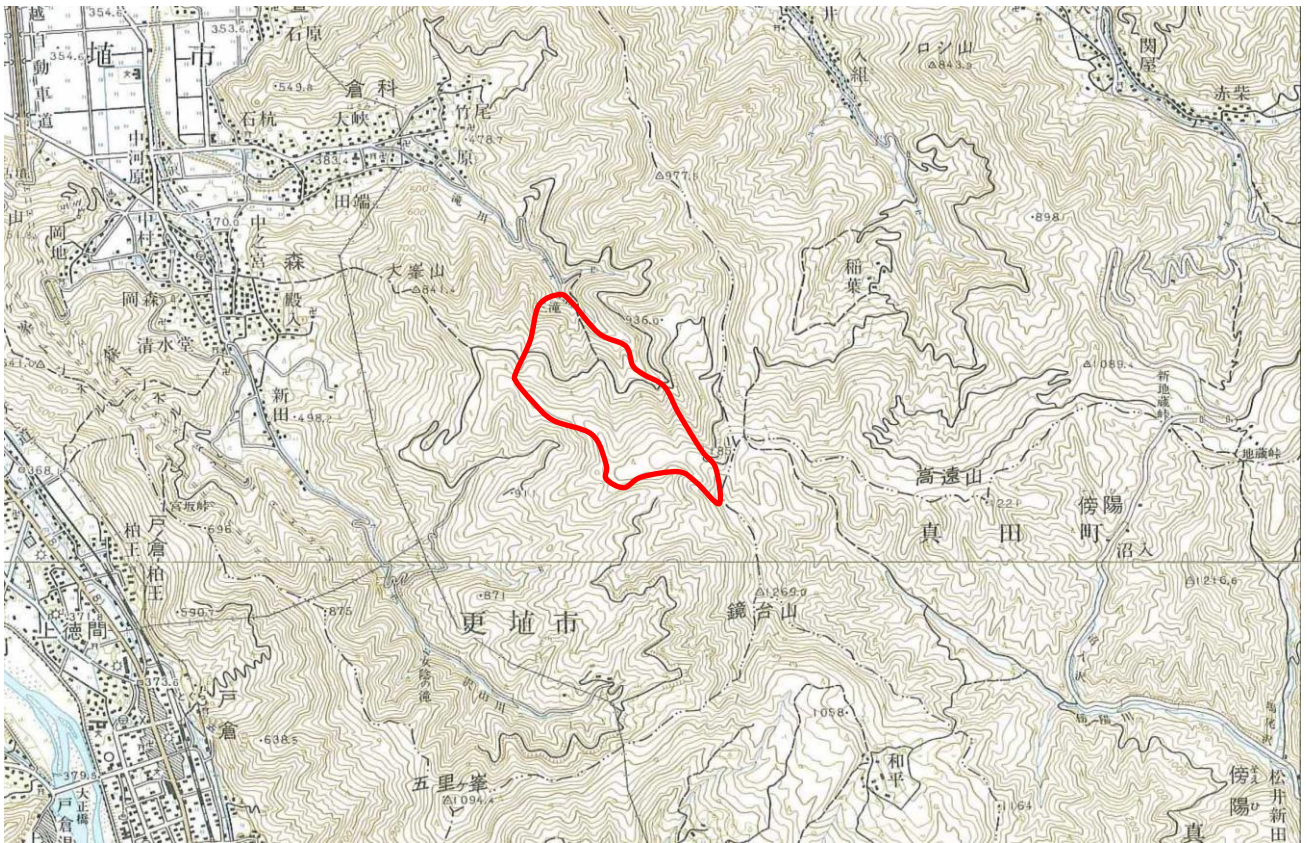
＜樹種別資源構成＞

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
314.78	64.52	69.17	13.38	91.17		40.47	36.07
100%	20%	22%	4%	29%		13%	11%



倉科県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(長野、坂城)を使用したものである。

<沿革>

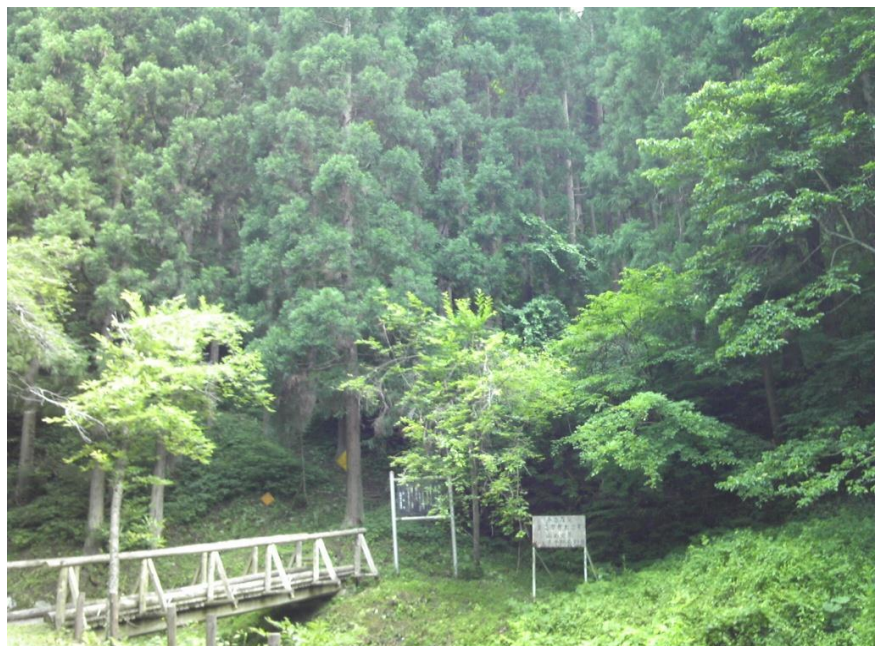
倉科県有林は千曲市の南東、標高560mから1,230mに位置し、一目十万本のあんずの里・森地区の奥山にあります。明治40年3月30日、国有林を購入して創設されました。

<現況・特色>

県有林のほぼ中央を林道芝平樽滝線が縦断しており、搬出間伐を主体とした森林整備が進められてきました。春ともなれば、あんずの「淡紅の花の海」を県有林から望むことができます。

県有林で育まれた水は、名勝「三滝」を生みだし、清流にしか見られないサンショウウオが棲息しています。

全体的に地形は急峻ですが、スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツなど多様な樹種が植栽されており、主伐期を迎えています。



名勝「三滝」を巡る遊歩道

<森林整備の方向>

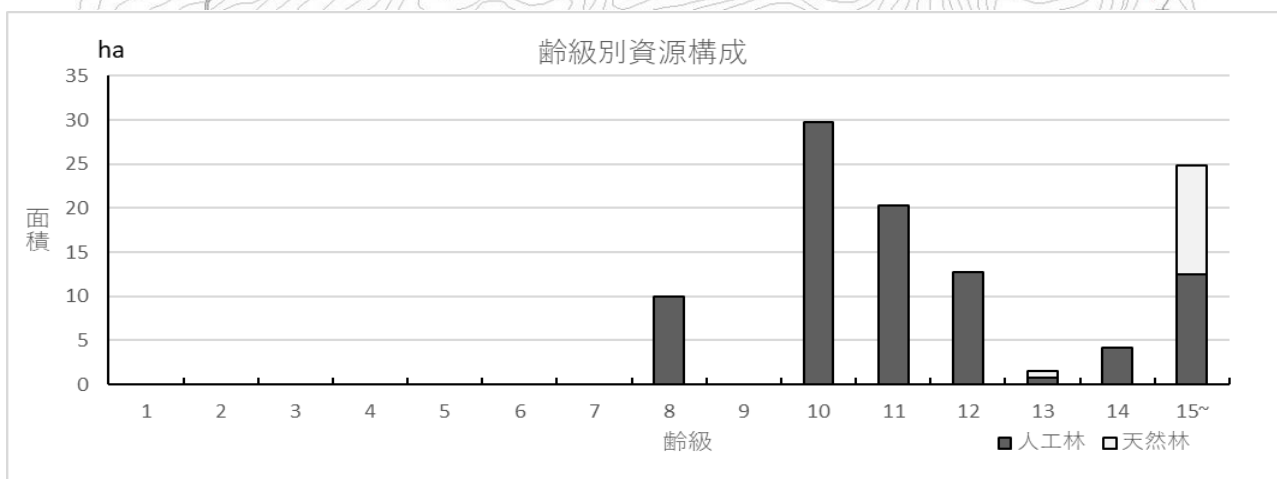
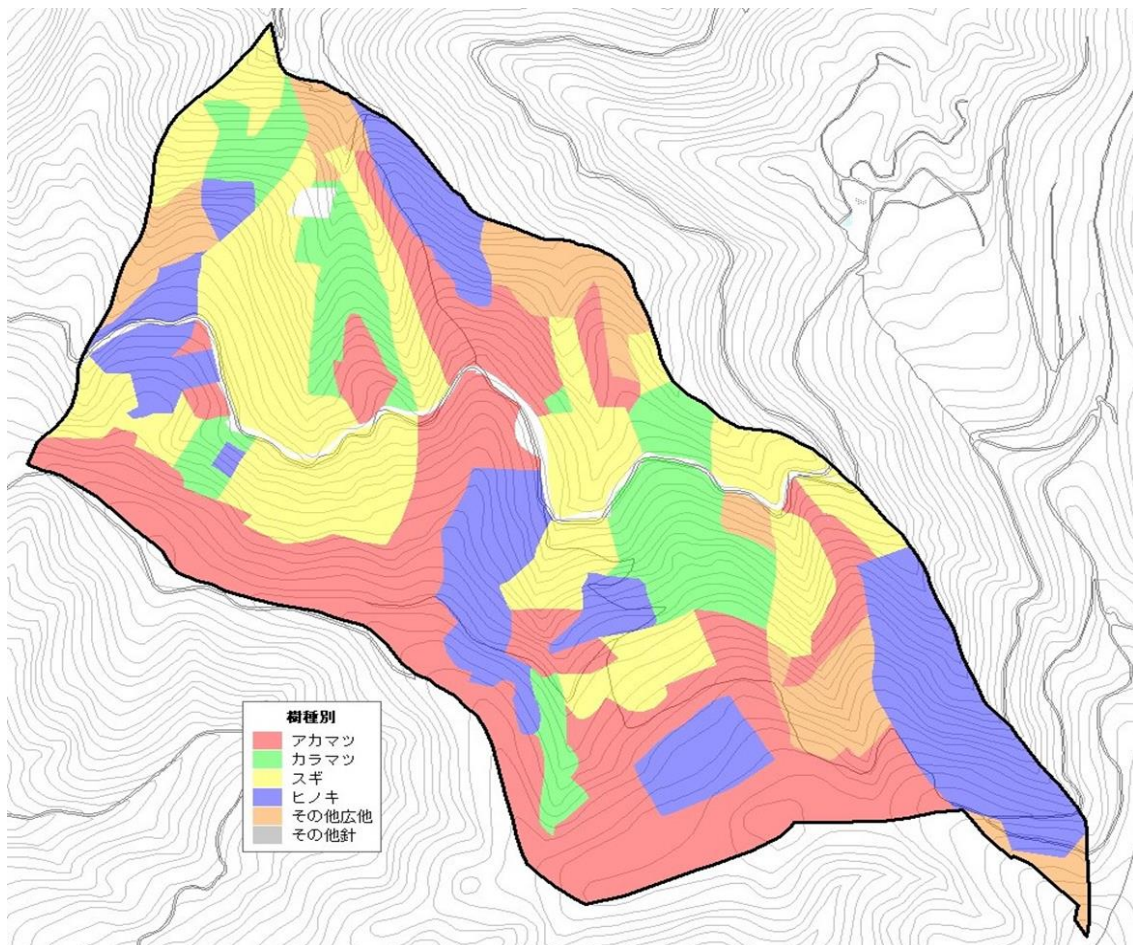
地形が急峻な林分では、架線系で搬出可能な区域において、帯状伐採で主伐を行い、再造林を実施します。傾斜の緩い区域においては、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を実施します。

林道から離れ、搬出が困難な区域では奥地林施業を行い、天然更新により針広混交林化を図ります。

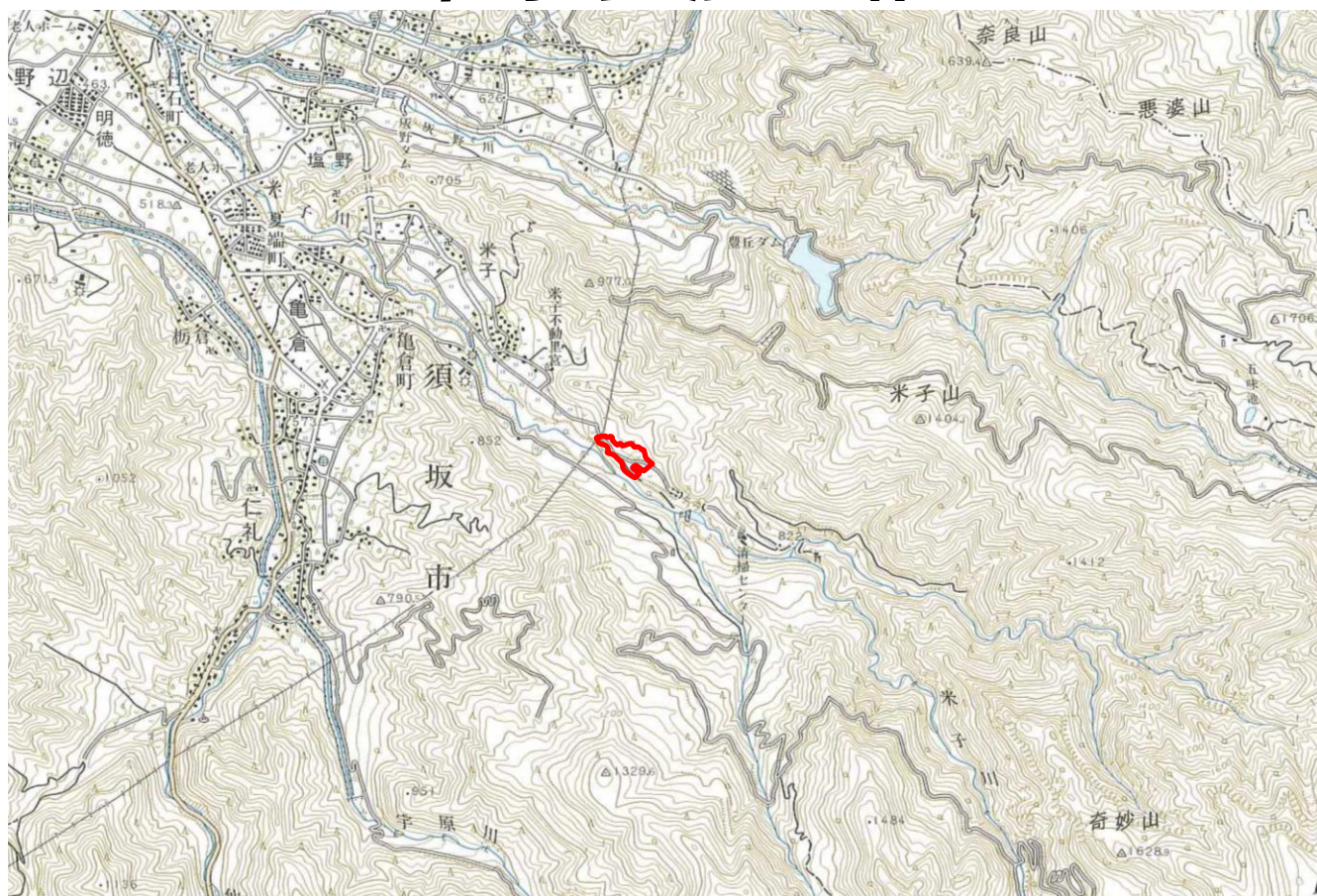
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
11601	33.35	31.87	17.58	11.4		1.78	20.03
100%	29%	27%	15%	10%		2%	17%



米子苗畑山林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(須坂)を使用したものである。

<沿革>

米子苗畑山林がある須高地区では、クマスギ挿し木苗の育成や造林が昔から行われてきました。この苗畑は、特に積雪地帯における県営林用苗木の自給をはかるために昭和39年に創設されました。現在は、苗畑としての役割を終え、採種園として活用されています。

<現況・特色>

スギの苗木生産において必要不可欠である種子及び穂木生産の拠点として、在来品種であるクマスギの採種園と、県民の大きな課題である花粉症対策のために開発された少花粉品種を中心としたスギ採種園が整備されています。

また、北信地域でも需要が高まっているカラマツ特定母樹の採種園も平成29年度から整備され、北信地域を中心とした森林づくりに欠かせない種苗の生産拠点となっています。



少花粉スギの養成状況（結実促進のための薬剤散布）

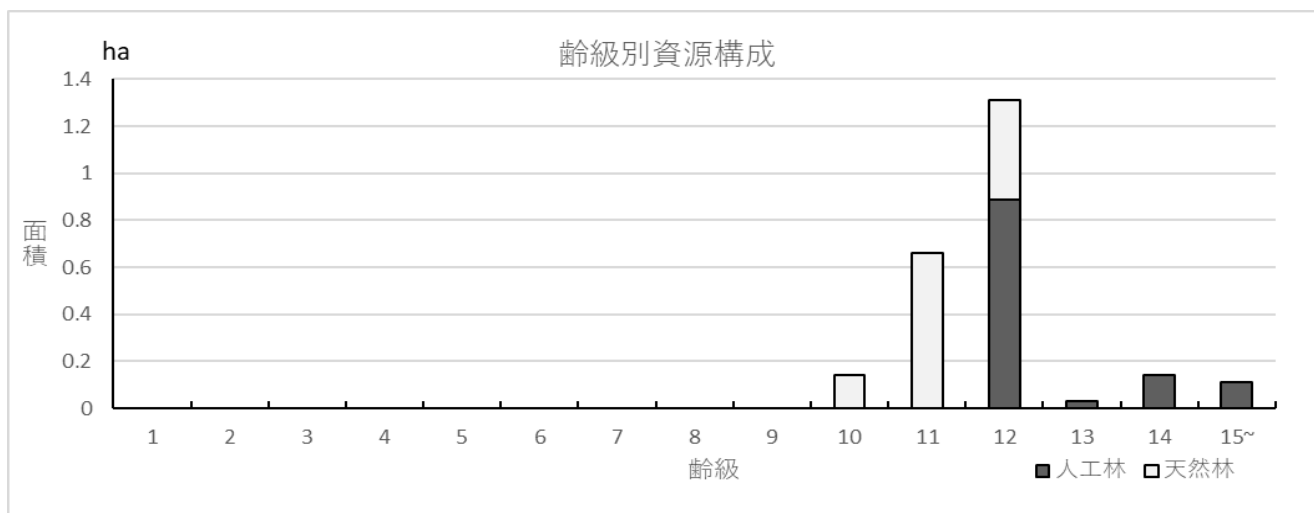
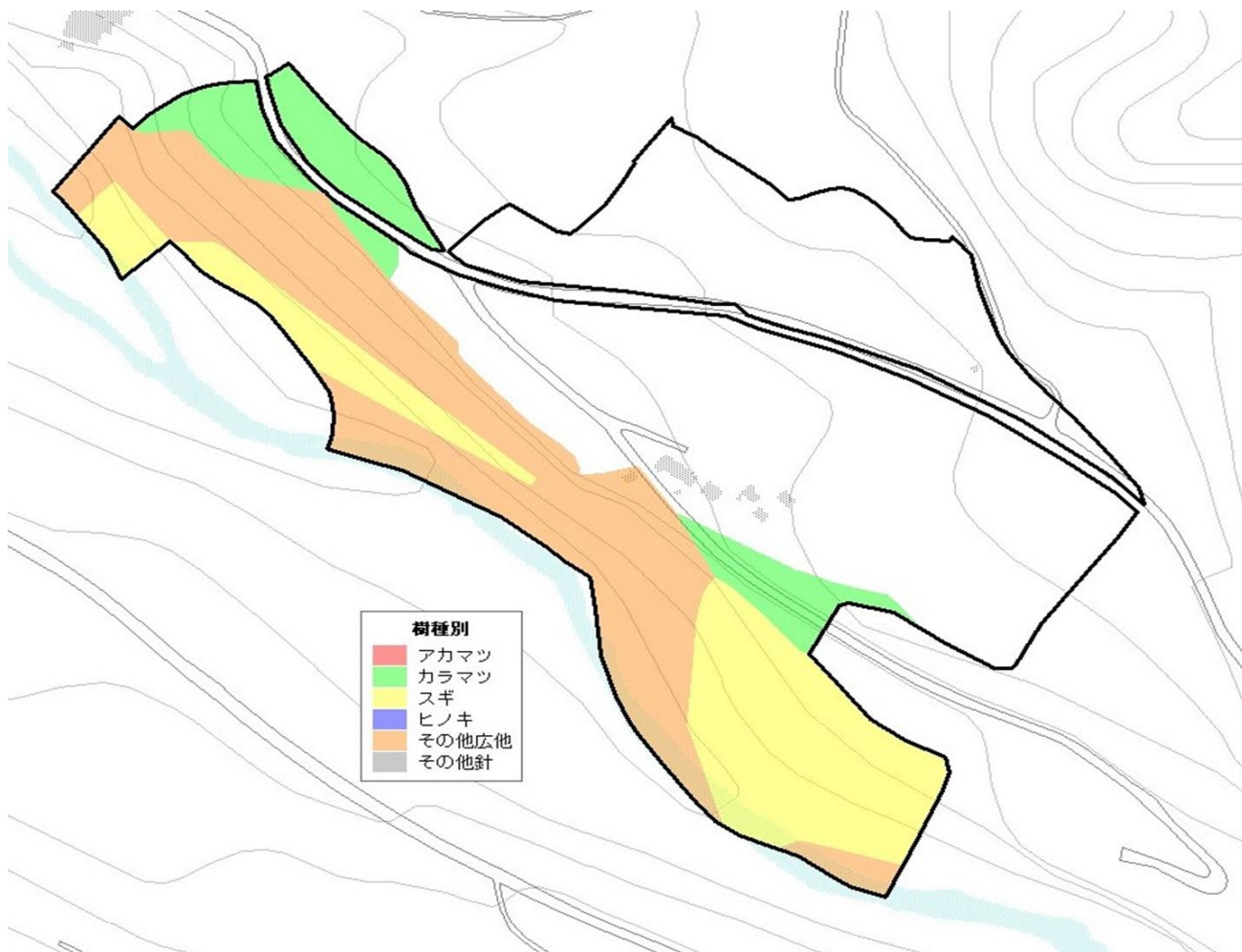
＜森林整備の方向＞

県内唯一のスギの採種園として、結実促進のための薬剤散布や、間伐、断幹といった光環境の維持を図るとともに、カラマツについても効率的な種子生産が可能となるように適切な保育作業を進めていきます。

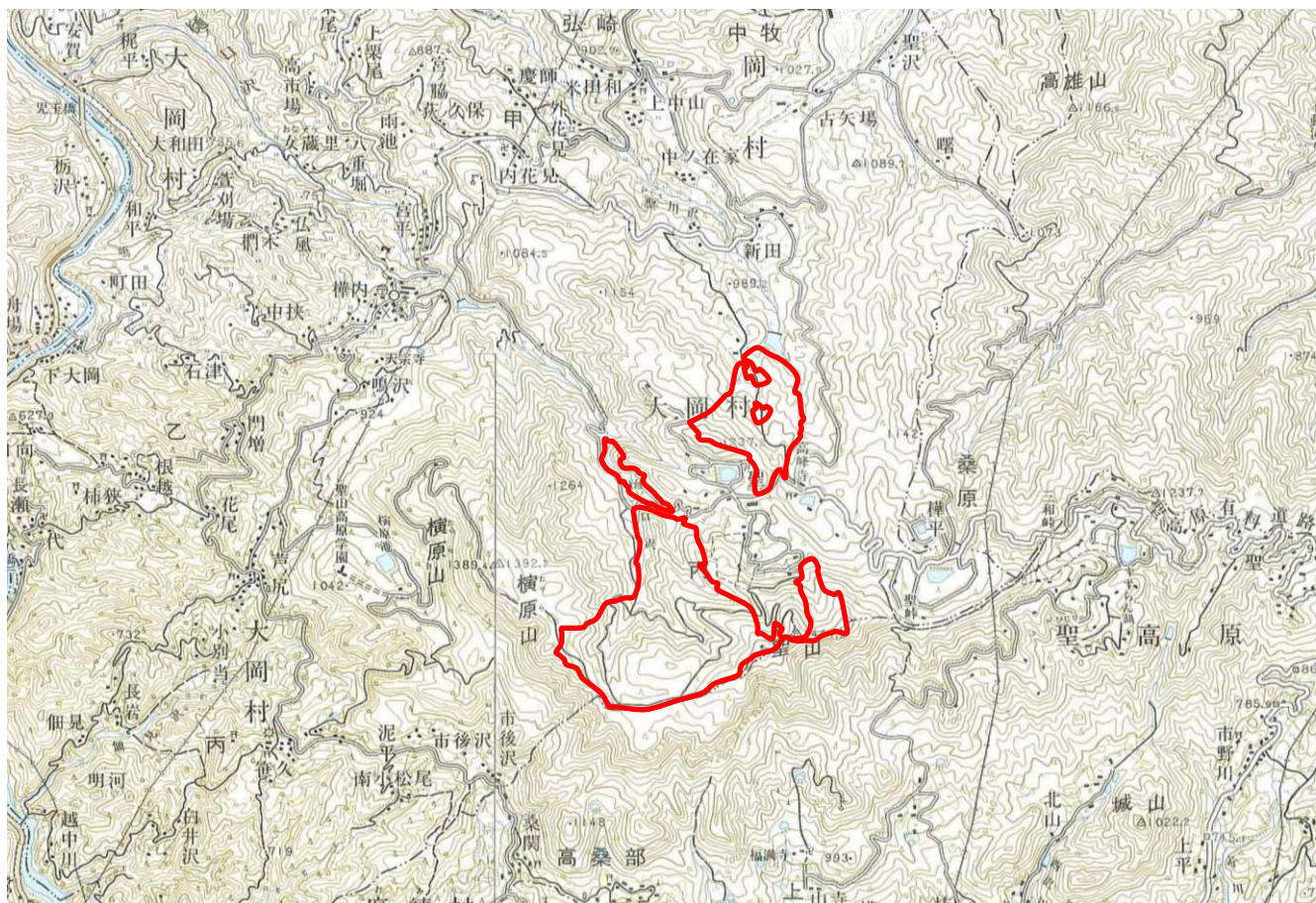
＜樹種別資源構成＞

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
6.93	1.02			0.15		1.22	4.54
100%	15%			2%		18%	66%



大岡県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(長野、坂城、信濃池田、大町)を使用したものである。

<沿革>

大岡県有林は長野市(旧大岡村)の南西、標高1,000mから1,420mに位置しています。明治39年3月31日、本県で4番目に創設された県有林。村営スキー場の開設のため、県有林の一部を交換した経過があります。

<現況・特色>

大正3年から昭和4年頃にかけて植栽されたヒノキ林があります。

県有林内には、胸高直径140cmと90cmの2本のブナの巨木が残されています。

平成23年3月12日に発生した長野県西部地震により被災した栄村の復興資材を確保するため、合板用のカラマツを緊急伐採し、災害時のセーフティーネットの役割を果たしました。

平成23年から伐採跡地を活用し、針葉樹人工林における更新作業低コスト化に向けた試験を実施しています。



更新試験地

<森林整備の方向>

路網が比較的整備されているため、傾斜が25度以下の区域では、効率的木材生産型施業にゾーニングし、傾斜が25度～35度の区域では小面積分散型にゾーニングし、資源が充実している林分から主伐・再造林を実施します。

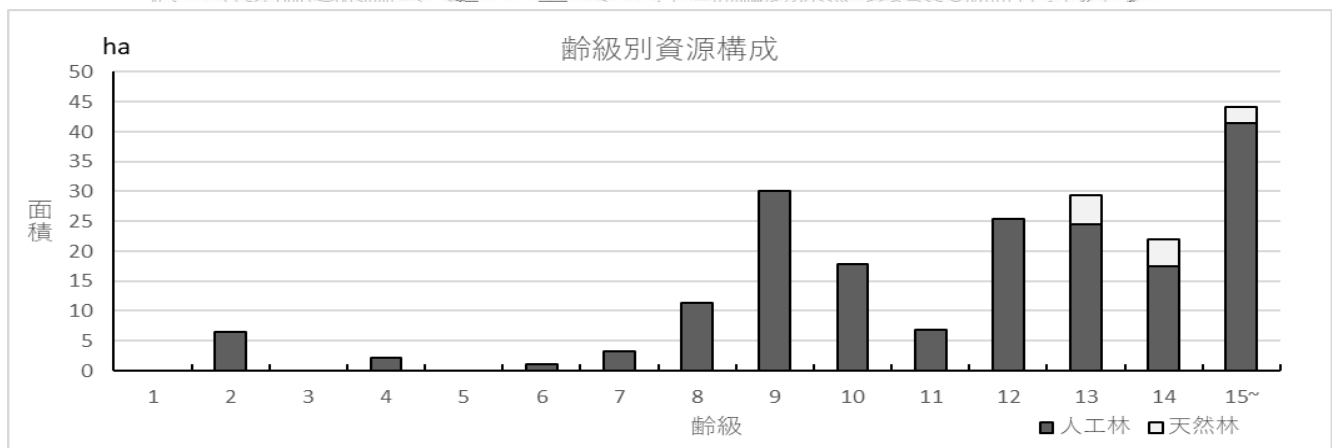
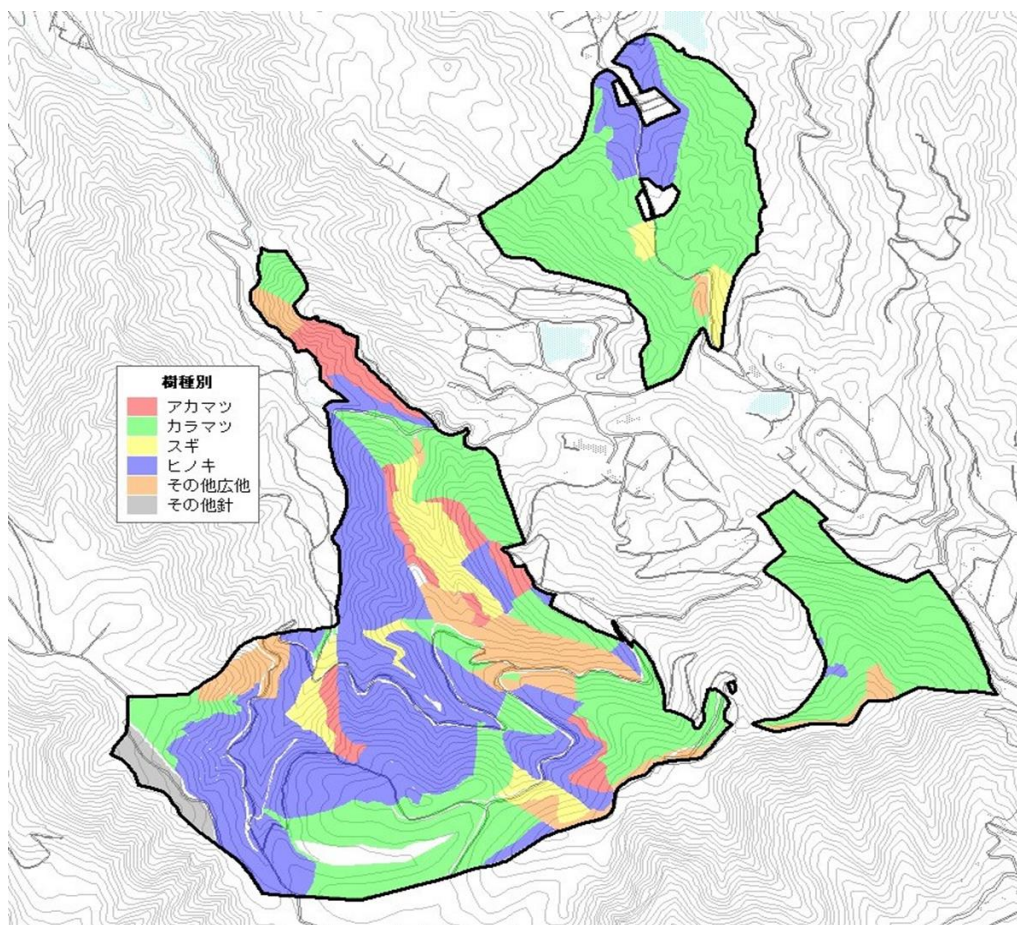
平成23年度の伐採跡地では、引き続き人工林の更新に関する研究を行い、効率的な更新技術の開発を目指します。

ヒノキ・サワラは成長が悪く、トックリ病なども発生しているため、樹種転換を検討します。

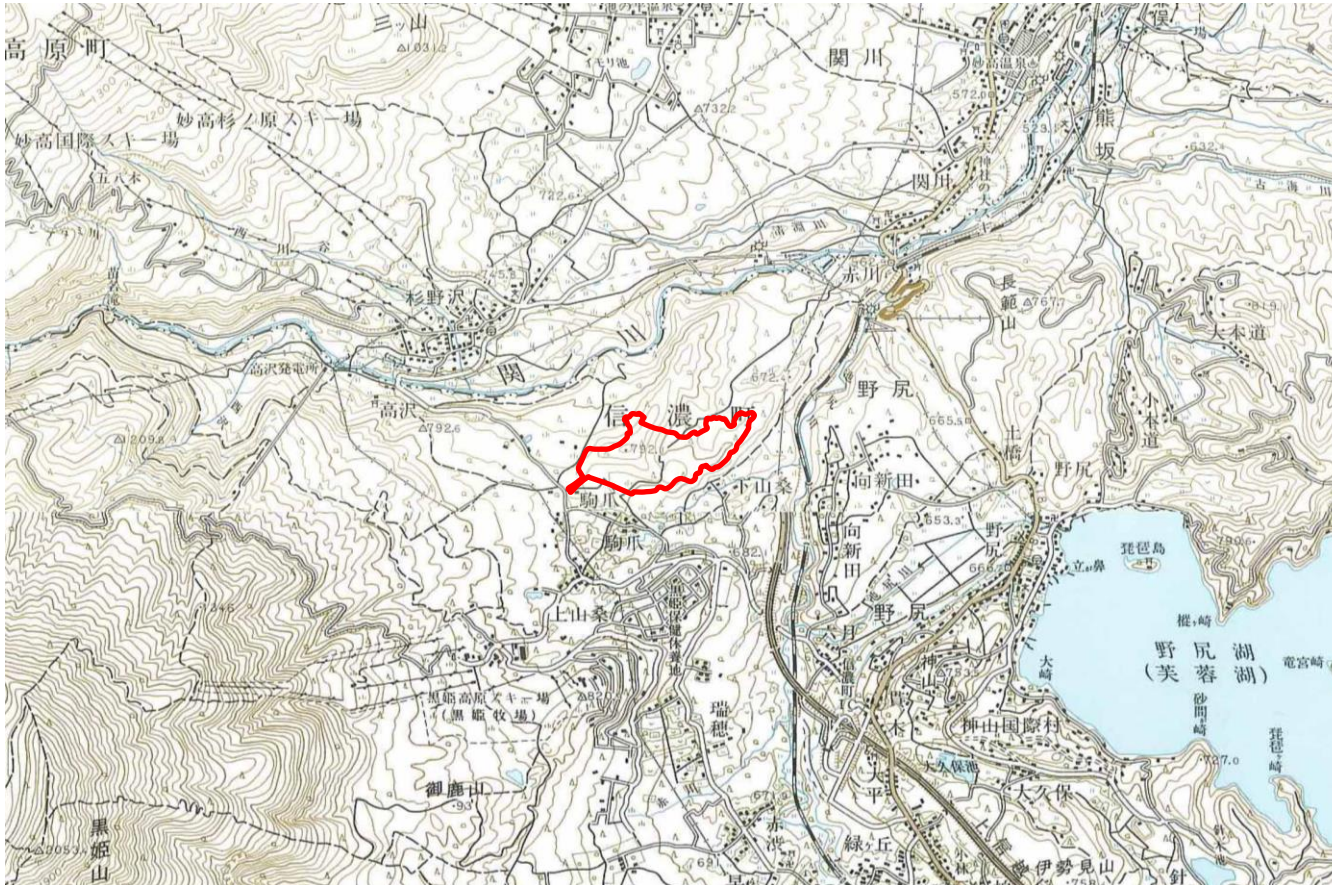
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
2072	15.69	11.6	64.26	91.53	2.59	8.99	12.54
100%	8%	6%	31%	44%	1%	4%	6%



野尻県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(妙高、戸隠)を使用したものである。

<沿革>

野尻県有林は信濃町の北側、野尻湖と黒姫山の間であり、標高650mから800mの比較的平坦な県有林で、すぐ東側を上信越自動車道が通過しています。

明治44年7月10日に創設された古い県有林ですが、当時100ha近くあった面積も、戦後の自作農特別措置法による開拓用地の提供などにより、現在では60haとなっています。

<現況・特色>

スギ・カラマツで全体の95%を占めています。

全体的に地形は緩やかで、路網も充実しており、木材生産機能が高い県有林です。

豪雪地帯のため、スギは根曲がりも見られますが、成育は良好で、大径木になるほど素性が良くなります。

平成30年度に1回目のモザイク型の更新伐を実施、令和元年度に植栽を実施しており、森林の更新作業にも積極的に取り組んでいます。



作業道 東尾根線（林業専用道相当規格）

<森林整備の方向>

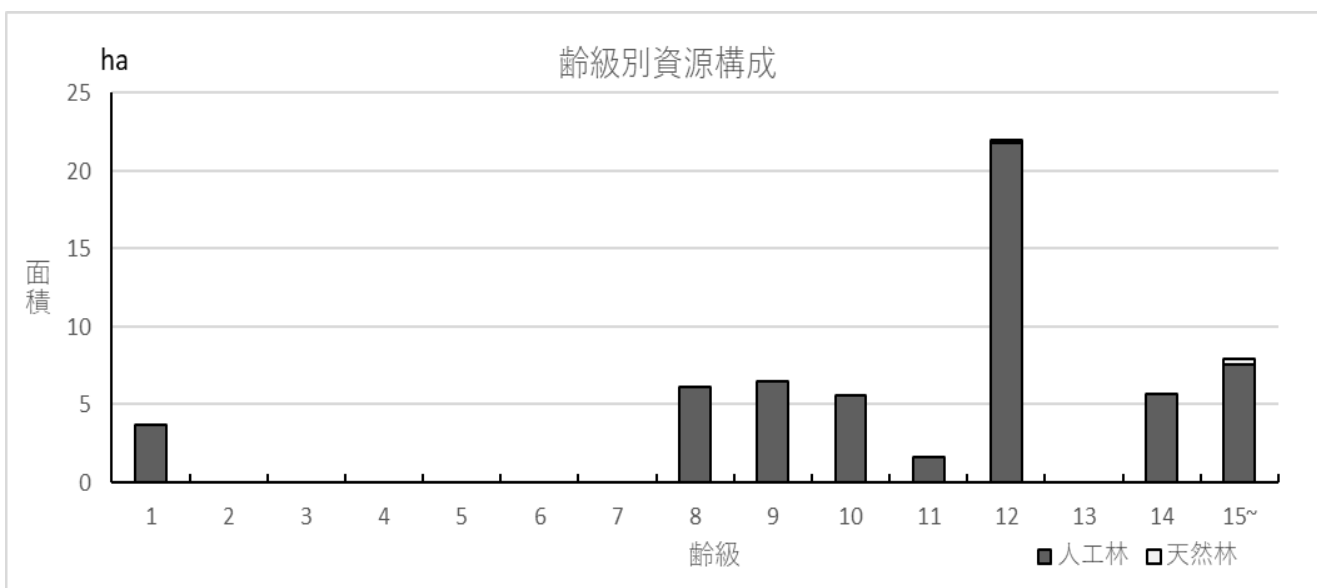
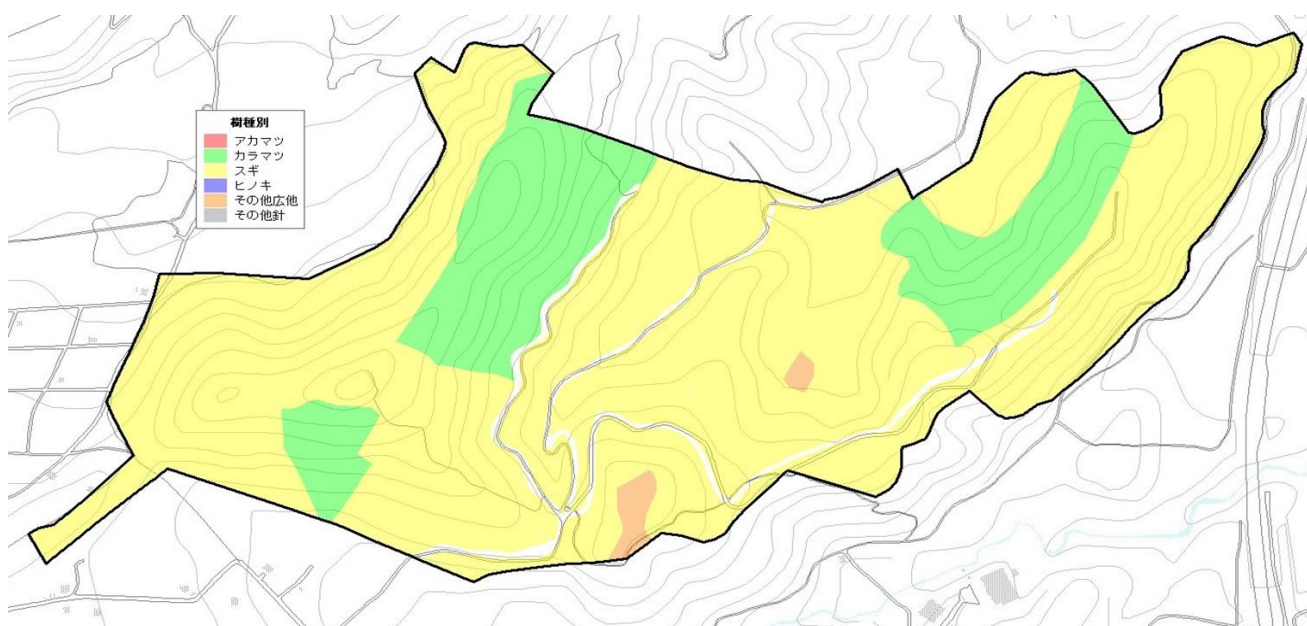
木材生産の期待が高く、路網も密に配置されているので、効率的木材生産型施業を中心としたゾーニングとし、主伐・再造林を実施します。

傾斜が急な林分では、帯状伐採による主伐・再造林を検討します。

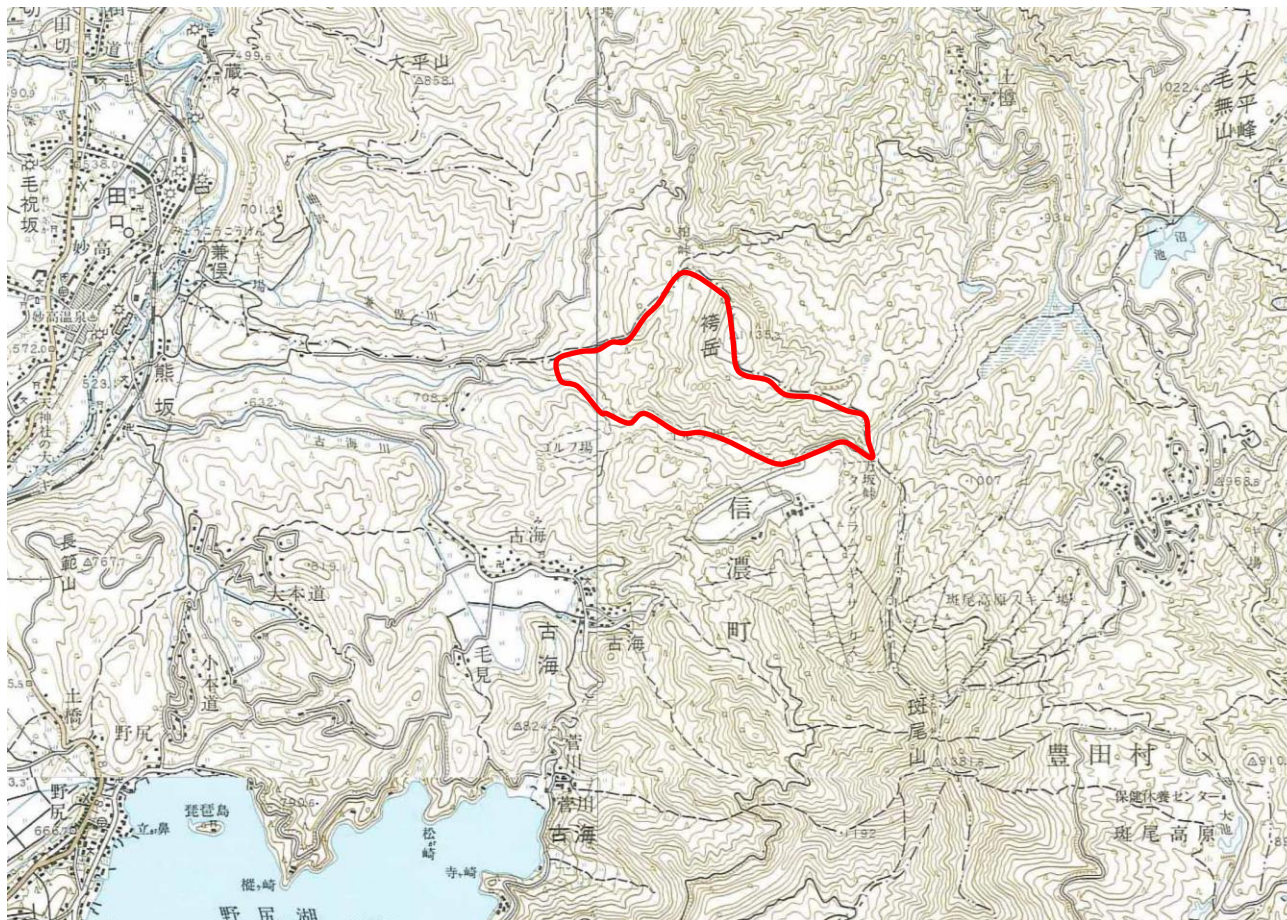
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
60.41	45.47		1.2	11.84		0.15	1.75
100%	75%		2%	20%		0%	3%



古海県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(戸隠、中野、飯山、妙高山)を使用したものである。

<沿革>

古海県有林は信濃町の野尻湖の東にあり、標高650mから1,130mに位置し、北側の境界線は新潟県に隣接しています。

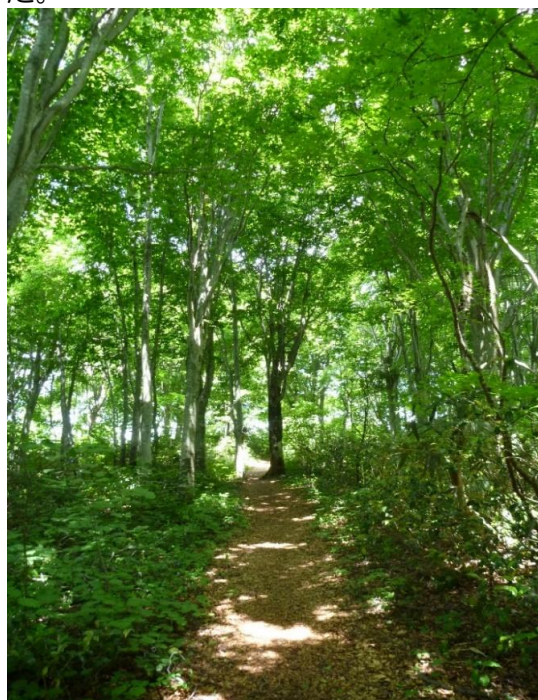
明治43年7月22日、国有林を購入して創設されました。

<現況・特色>

新潟県との県境の豪雪地帯に位置しているため、スギを主体として植栽され、人工林の8割以上をスギ林が占めています。

ミズナラやクリ、ブナなどの50~70年生天然広葉樹林が50haほど存在し、これら広葉樹林の整備が課題となっています。

「有歩百選」(読売新聞社)の一つに選ばれた、斑尾高原トレッキングが通過しており、これは、全長80kmにもおよぶ里山をめぐるロングトレイル「信越トレイル」のメイントレイルとしても位置付けられています。



古海県有林内を通過する信越トレイル

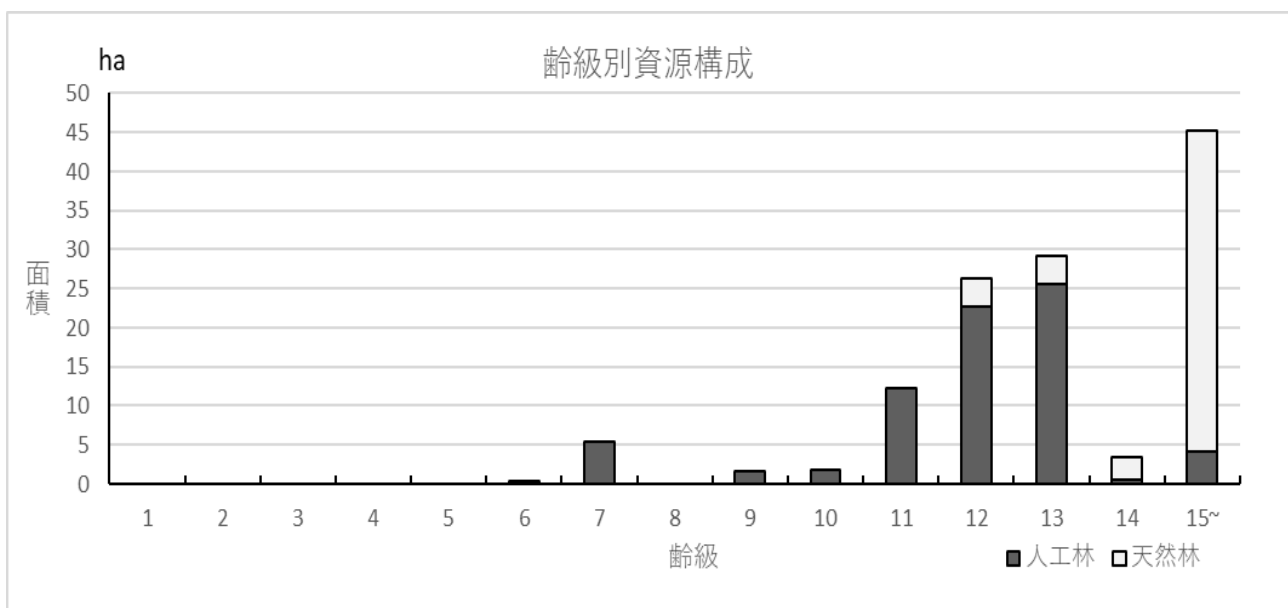
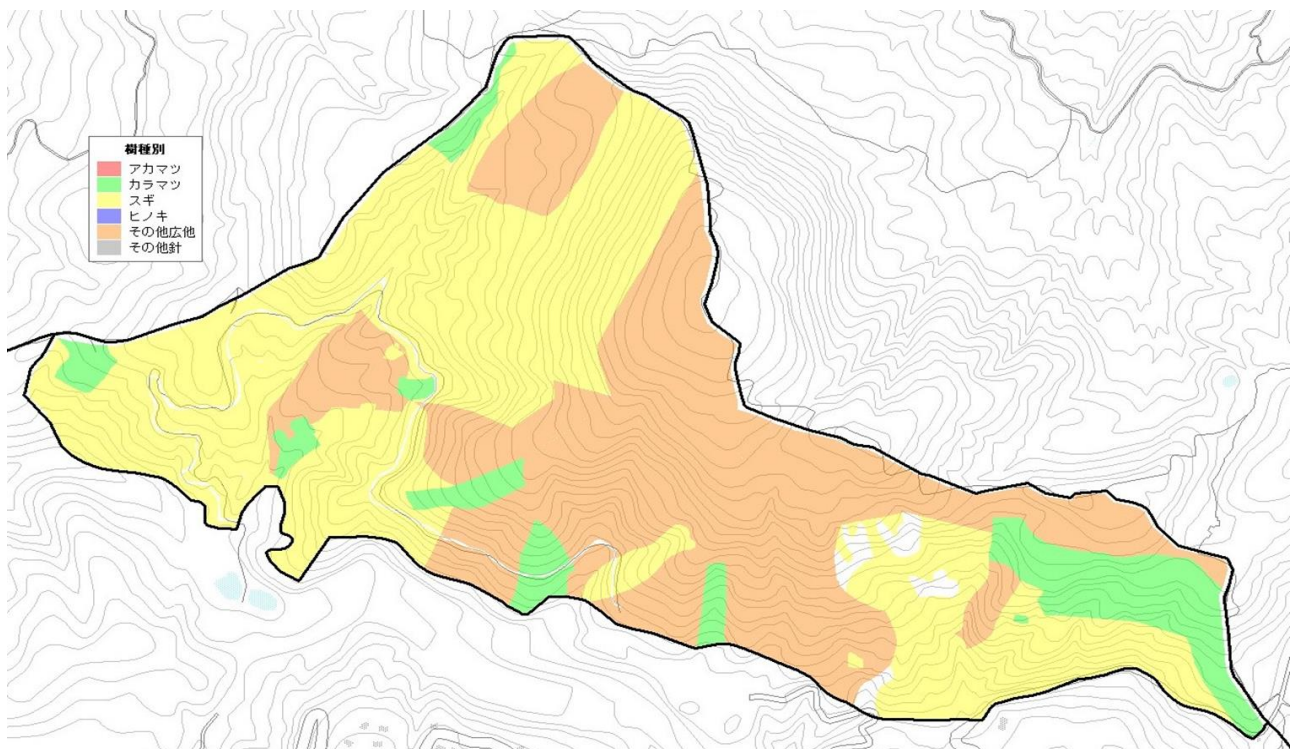
<森林整備の方向>

傾斜が25度以下の林分では、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を実施します。路網に隣接する比較的傾斜が急な林分については、帯状伐採により主伐を行い、再造林を実施します。

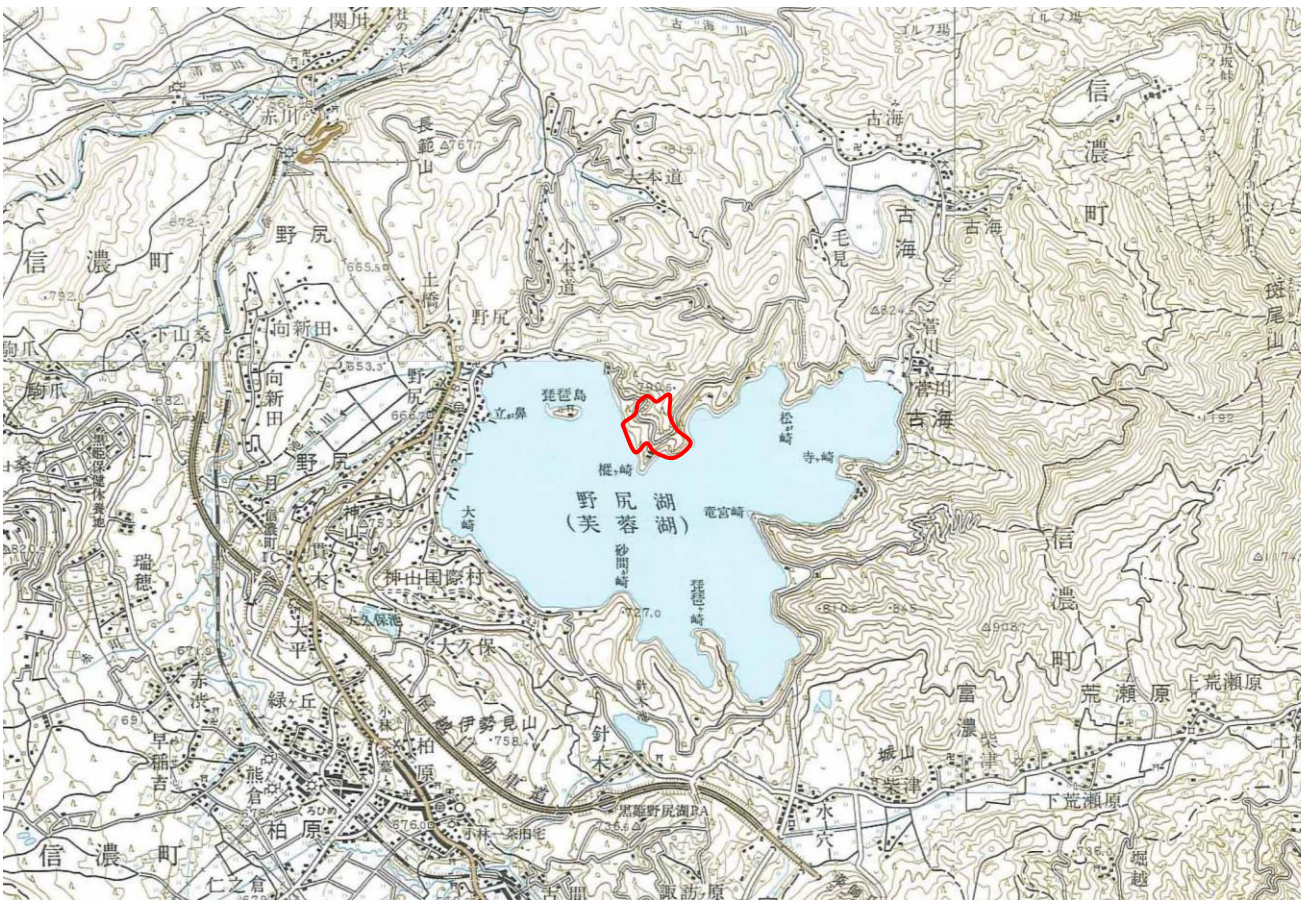
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
130.42	61.49			11.69		37.53	19.71
100%	47%			9%		29%	15%



縦ヶ崎県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(戸隠、中野、飯山、妙高山)を使用したものである。

<沿革>

縦ヶ崎県有林は信濃町の野尻湖畔に位置する小さな県有林です。昭和の初期、県が観光開発を目的として購入した土地を総務部管財課から平成元年に県有林へ所管換えされました。

<現況・特色>

林内にはモミやミズナラの大木が生い茂り、一帯は上信越高原国立公園の第2種特別地域に指定されています。

近年は、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの被害が顕著となっています。

令和4年度から、「縦ヶ崎の森林環境を守る会」と利活用協定を締結し、森林整備活動を実施していただいています。



県有林から野尻湖を望む

<森林整備の方向>

カシノナガキイムシによるナラ枯れ被害対策のため、県道沿いについては、健全木を含めた高齢のナラ類の伐採、搬出を早急に実施します。林内の枯損木についても、健全木を含めた伐採について検討を行います。

<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
11.86	0.6					9.75	1.51
100%	5%					82%	13%

